

しめると言ふ點にあることが看取される。發音を假名書にしてゐることもその爲であらう。とに角、西藏語による佛教研究をなさんとする者は一應文典を繙かねばならないが、その入門の書としてここに紹介してゐる文典が最も良きものであり、なければならぬものであると言ふことを明言し得る。著者が三度までも稿を改めて懇切に斯學を修めんとする者の爲に盡瘁せらるゝところは感謝して餘りある。附録として藏文「般若心經」

「轉法輪經」「第六世達賴喇嘛の情歌」を發音、和譯を附して載録してある。たゞ對照してある梵語の考慮を要するものと、誤植が少しく目に付くことである。事情を聞くに、印刷所が不注意にも原稿を紛失するに至つたとの事であるが、このことが少からず此の文典の印刷に關する限りの支障を生じてゐる過半の原因であらう。新に正誤表を印刷して添附される由であるから、毫も著述價值には關係のないことである。尙、これは教授の自費出版であり、百部限定と聞く。敢へて江湖の學徒に薦む。

(一三九頁、昭和十三年五月二十日、黙勵社發行、非賣品)

(星)

研究室彙報

眞宗學研究室

△眞宗學會

五月十一日 午後三時より第一教室に於て大須智學長並に新會員歡迎會を開催。席上、學生側より「例會」に對する希望、岸助手より「眞宗論攻」に就ての意見開陳あり、夫々熟慮の上、善處を約して散會。出席者三十名。
五月二十七日 午後三時より第二教室にて例會を開く、講師及び講題左の如し、

僧都禪瑜と其の淨土教思想
事變と眞宗學

戸松憲千代氏
安井廣度教授

佛教學研究室

四月十六日午後一時より新京極森永キャンデ・ストアに於て、龍山助教授渡歐歡送會を印度佛教學會・大乘佛教學會合同にて催はす。

△印度佛教學會

五月十一日午後三時より第三教室にて例會を開き、山口益教授の「ブーサン教授の想ひ出」と題する講演を聞く
六月二十三日午後三時より第十一教室に於て例會。講師講題左の如し

四雙八輩に就て

林五邦教授

△大乘佛教學會

五月四日午後三時より、寺町鑑屋に於て、新會員歡迎會を例會を兼ねて開く。講師、講題左の如し、

佛教の研究法に就て

山口益教授

舟橋豫科教授、河野、奥村副手以下學生三十餘名出席、講話後種々座談がなされ盛會なりし。

六月二日午後三時より、第十一教室に於て例會開催、講師講題左の如し、

聖所愛戒に就て

西本龍山囑託教授

五月二十六日より四日間に亙つて、日下教授指導の下に讃岐・善通寺・高松方面へ史蹟踏査旅行を行ふ。参加者十數名。

哲學研究室

△西洋哲學會

倫理學會

二月九日午後六時半より寺町鑑屋に於て例會並に卒業生送別會開催、研究發表次の如し。

「テア エテトス」を讀みて

研究科打田幸夫君

鈴木、立花、大友、正木の諸教授及び學生數名出席。

因みに本年度は金松(西哲)、中山(倫理)兩君を送れり。

△宗教學會

六月十六日午後三時より第四教室に於て、研究發表並びに親睦會開催。

宗教に於ける偶然性の問題

研究科 香川義昌君

△社會學會

六月八日午後三時より寺町鑑屋にて、新會員歡迎會開催
六月二十二日午後三時より、十一教室に於て例會を開く。

左の研究發表あり。

指導者への一考察

三回生 粟津智雄君

人文學研究室(第二)

△國史學會

四月二十九日午後六時より、八百文に於て新會員歡迎會開催、徳重、藤島教授、宮田助手以下、學生三十三名出席。
五月二十三日午後三時、第七教室に於て例會、講師及び講題左の如し。

Japanese Garden History

Samuel Newson氏

六月四日午後一時より第七教室に於て例會、左の研究發表あり。

中世末期に於ける武士社會の精神傾向

三回生 柳山淳君

△國文學會

五月十一日午後六時より、明治製菓に於て、新會員歡迎會開催、龜田、清水、兩宮、島田教授及び學生九名出席。六月十五日(水)午後三時より十一教室に於て例會。講師、講題左の如し

國語研究の懷舊談

龜田次郎教授

出席者、島田、藤田、寺本教授兩宮助手及び學生約十名、外部より藤野龍大教授、石濱京大講師、今西、岩本文學士等、尙、國文學會では毎週水曜日午後三時より「紫式部日記」の輪讀會を開きつゝあり。

人文學研究室(第二)

△東洋史學會

五月五日午後三時より第十一教室に於て、例會開催、野上俊靜教授の滿鮮見學旅行談あり。田村、藤田、愛宕、徳重、藤島、兩宮教授以下學生二十五名出席、尙、同日午後六時より、鳥初に於て新會員歡迎會を開く。

五月二十二日早朝より追分、宇治、醍醐方面へハイキングを行ふ、參加者十二名。

六月一日午後三時より第十一教室に於て例會を開く、講師講題左の如し。

東洋史所感

尙、東洋史學會に於ては毎週一回輪讀會を開き、(テキストは僧史略)、毎週水曜日の午後三時より、田村、野上教授を中心として座談會が眞摯に行はれてゐる。

石濱純太郎氏

次號目次豫定(十月刊)

親鸞聖人の太子和讃に就て

日下 無倫

聖提婆に歸せられたる中觀論書(承前)

山口 益

題目未定

——智心隨集について——

源 廣宣

唐代以後の淨土教と善導

道端 良秀

玄奘譯俱舍論世間品の本文批判

舟橋 一哉

隆寛律師の門弟とその傳承の一斑

自見 直

近世に於ける眞宗々名の一件に就て

宮田 利雄

後周世宗の破佛とその史的考察

野上 俊靜

テオロギア・ゲルマニカの悟境

横川 顯正